令和４年　神奈川県議会　第１回定例会　厚生常任委員会

令和４年３月７日

谷口委員

公明党の谷口でございます。若干、先行会派の皆さんと重複する点があるかもしれませんが、よろしくお願いします。

まん防が 21 日まで延長されることになったわけですけれども、このまん防の重点措置の効果について疑問視をする声もあります。そういった意味で幾つか聞いていきたいと思いますけれども、そもそもまん延防止等重点措置によって、どういうことが期待できるのか、改めて確認させていただきたいと思います。

医療危機対策本部室長

現在のまん延防止等重点措置の、実際の措置の内容としては飲食店時短営業要請ということで、９時までということになっていますけれども、９時まで時短にする効果というのは、飲食を行って、その中で時短要請とともに、これは本当に協力を促すというようなところですけれども、人数制限も、基本４人以内といった要請もしています。それによって、もし時間が遅くまで、制限がない場合には、やはり二次会、三次会という、よりお酒の力も手伝って、声が大きくなったり、マスクを外して会話する場面、そういった機会が増える。それが抑制されるという意味では、感染者を急激に落とす効果は正直厳しいと思いますけれども、増やすことを抑制する効果はあるんじゃないか。今の措置で、マスクを外す場面の機会を少しでも限定するという意味では効果があるという考えでございます。

谷口委員

分かりました。頭を抑える効果はあるだろうということですね。

それで、東京都のほうで、今月３日、４日までですか。３日にモニタリング会議が開かれて、その場でも、都の医学総合研究所の西田氏は、夜間の滞留人口が増え続けるとリバウンドに向かう可能性が高いと述べています。過去を振り返って、これまでの中で、本県でも過去に重点措置や緊急事態宣言を解除してから患者数がリバウンドした例というのがあるのかどうか。今日の資料の中でもグラフがありますけれども、この辺をちょっと確認させてください。

医療危機対策本部室長

神奈川県では、これまで緊急事態宣言が３回、それからまん延防止等重点措置が１回で、今回の第６波におけるまん延防止等重点措置で適用が２回目となっています。前回のまん延防止等重点措置については昨年４月に発令されましたけれども、その後も感染者が減少しない状況が続いたまま８月の第５波の緊急事態宣言の発令につながったという状況があります。

３回の緊急事態宣言解除後の感染の動きを見ますと、昨年の１回目の緊急事態宣言では５月 25 日に解除してから半年の間、感染者数の落ち着きが見られたと、昨年度ですね。それから、昨年９月に３回目の緊急事態宣言が解除されましたけれども、その後、10 月からしばらく３か月程度、感染は落ち着いていたと。

一方、２回目の緊急事態宣言、これは昨年の３月に解除されましたけれども、

その後、１か月後の４月にはまん延防止等重点措置の適用ということで、ここではいわゆるリバウンドが起きて、緊急事態宣言解除後にまん延防止等重点措置につながったというふうに考えているところでございます。
谷口委員
　分からないなら結構なんですけれども、今のまん防、それから緊急事態宣言の始まりや解除とリバウンドの関係と、株が置き換わってきている、アルファからデルタ、デルタからオミクロン、そうしたこの全体の関係でいうと、どういうふうに捉えていらっしゃるのか。分かる範囲で結構なんですけれども。
医療危機対策本部室長
　いわゆる昨年度の第３波の、昨年の冬の第３波はアルファ株がメインになっていたと。３月ぐらいまで、特に大阪あたりで顕著でしたけれども、感染者が増えていたという状況があります。その後、４月以降、デルタ株の発生というのが徐々に増えて、デルタ株が増えていく中で、夏の第５波の大きな感染が生まれた。今回もオミクロンというものが、恐らく県内でも、実際に県内で確認したのは１月２日ですけれども、その前から恐らくあって、この１月、特に２月にピークを迎えましたけれども、これが大きな波になってくるということで、株の変異によって、やはり大きなピークが訪れているという状況は今までにも３回あったのかなというふうに思います。
谷口委員
　そうすると、今回もオミクロンも、県内でも、いわゆるステルスオミクロンと言われるＢＡ．２が少し出始めて、今後これが、今何％か分からないですけれども、置き換わりが 10％ぐらいまで来たときに、一気にばっと置き換わるのではないかという、そんな見方もあるんですけれども、このオミクロン株の亜種というか、ステルスオミクロンへの置き換わりも含めて、今後この先どういうふうに見ているのか、そこも何かお考えがあれば教えていただければと思います。
医療危機対策本部室長
　まずＢＡ．２という、いわゆるステルスと言われている亜種については、国内でもそれほど数が増えているという報告も受けていないという状況であります。ただ、若干の懸念材料としては、３月から海外からの入国者の制限を大分緩和したというのがありますので、海外から持ち込まれて増えるという可能性もなきにしもあらずというところで、まだ先がちょっと読めないかなというところがありますし、このＢＡ．２の感染力が強いといって、完全に置き換わるような動きなのかどうか、まだ正直、見通せないという現状があります。
谷口委員
　本筋のほうへ戻りますけれども、今日御報告いただいた内容でも、週別でいっても、先週は前の週に比べて若干リバウンドを、週全体としてはしていますし、各日にちを見ても、下がっている日が多くなってきたけれども、先週はどちらかというと、７日のうち４日が前週比でリバウンドしているんですかね。そうした動きがあるかと思うんですけれども、これをどう、リバウンドの兆候と見ているのか、どういうふうに見ているのか、ちょっとお聞かせください。

医療危機対策本部室長
　まずこのオミクロン株が先行して感染者が拡大した沖縄県の状況を見ましても、一旦減り始めてからまた微増しているという、リバウンドというほど伸びるのかどうかというと分かりませんけれども、微増状態があります。これは沖縄県特有の話というよりは、神奈川県も同様のことがあっておかしくないと考えておりますので、リバウンドの兆候と言い切れるほど増えるかどうかは、別として一つの兆候の可能性はあるかなと。
谷口委員
　分かりました。一方で岡山県、これはこのまん防の解除を要請して、知事も記者会見で、飲食店の時短要請についてはオミクロン株の特性を踏まえると、あまり効果的ではないというふうに会見で述べられています。岡山の知事さんはこういう判断をされているんだろうということですけれども、本県としてはオミクロン以前と、このオミクロンについて、まん防の効果は変わらないと見ていらっしゃるのでしょうか。
医療危機対策本部室長
　まず、このオミクロン株はデルタ株に比べて、世代時間、感染してから何日目にうつすかという、それが非常に早いということ、つまり発症する前に、もう人にうつしている、そういう状態でありますので、飲食店の対策だけ、本人が無自覚に人に感染させているという状態が非常に多いんじゃないかというところで、そういう意味では、飲食店だけの規制では十分ではない。これ以外にもやるべきことがあるんじゃないかというのはありますけれども、岡山県と神奈川県で大きく違うところは、飲食店の数と人口の密度も違いますので、一つの飲食店に多くの人が集まる、そういう機会も非常に増えるという意味では、都市部のほうがこういう措置については、一定の効果が出やすいのではないかなとは考えております。
谷口委員
　分かりました。最後になりますけれども、飲食店の方々からは、やはり今回で３月、昨日で解除されて通常の営業に戻れるんではないかと期待が非常に大きかった、そういう声をたくさん伺います。そういう意味で、ピークは終えたのかもしれないけれども、その下がり方で今ちょっとリバウンドというか、伸びたり階段状になったりと、下がり方がかなり緩いなというのが今回のこのグラフを見ても分かるんですが、ただ県民の皆さんや飲食店の方々からすると、早くこの状態を脱してほしいというお気持ちが強いのは皆さんもお感じだと思いますけれども、そういう意味で、今回のまん防の延長が最後になるように取り組んでいくべきだと思うんですが、どういうふうな取組をしていくのか、最後に確認をさせてください。
医療危機対策本部室長
　この感染状況を抑えるという一つの大きな手段としては、ワクチンの追加接種、これを可能な限り早く促進していく、これが重要かと思います。それから、やはり重症者を少しでも出さないためにも中和抗体療法の促進、これも必要でありますし、あとは病床の逼迫という状態の中では、病床の回転率を少しでも上げていく、地味な取組でありますけれども、そういったベーシックな取組を

行う中で病床の確保、これを確実に行っていくということが重要かなというふうに考えております。
谷口委員
　今、病床の回転率とおっしゃったけれども、要するに早くよくなっていただいて、また通常生活へ戻っていただくという意味では、いわゆる薬、経口薬も含めた、そうしたことが大事だと思うんですけれども、早くよくなっていただくために県がやっていること、最後だけ、それを確認させてください。
医療危機対策本部室長
　中和抗体療法の促進ですね、多くの方に受けていただく。内服薬も出てきましたので、その普及と、新たな内服薬の開発に当たっての治験への協力、これも県としても取り組んでいきたいというふうに考えております。
谷口委員
　分かりました。治験への協力も含め、しっかりと取り組んでいただくようお願いして、質問を終わります。